

スリランカ国認証野菜種子生産システム強化プロジェクト

(実施期間：2016年1月～1.6ヵ月、担当業務：野菜種子収穫後処理技術)

業務背景

スリランカ国は、コメ以外の作物の輸入依存度が高いことから、コメ以外の穀類やマメ類、野菜の栽培振興や生産性向上を目指している。同国の中長期国家開発計画では、これらの作物の自給率改善にあたっては、種苗の質の向上が重要課題であると指摘された。そこで同国政府は、より質の高い野菜種子生産技術を普及し、農業生産性と質を向上させることを目的とした技術協力プロジェクトを JICA に要請した。プロジェクトでは、官・民の野菜種子生産技術向上を進め、種子生産技術における課題の分析、適正技術の提案、研修内容の改善に取り組んでいたが、種子収穫後処理技術に関しては講義で触れるのみであった。しかしながら、不適切な収穫後処理に起因する種子品質の低下が指摘され、収穫後処理に係る適切な知見・技術を種子生産者の間に定着させることが必要であるとされた。

業務概要

本業務は、種子収穫後処理に関する課題を整理し、現地において適用可能な収穫後処理技術を検討し、種子生産マニュアルの精査、収穫後処理にかかる研修の実施を行うことで、種子生産技術研修を強化することを目的として実施した。

担当事項

- 官民の種子生産農場における種子収穫後処理における現状確認と課題の分析
- 現場で適用可能な種子収穫後処理技術の取りまとめ
- プロジェクトが作成した種子生産マニュアルの収穫後処理に関連する項目の精査
- 種子生産研修の収穫後処理分野の見直し、指導内容・方法の精査、および教材の作成
- 種子生産研修における収穫後処理技術の指導



現状調査のための
種子生産農家へのインタビュー



種子保管庫の現状調査と改善の提案



種子消毒技術の提案と
技術習得のための研修の実施



種子生産農家向け収穫後処理技術研修